

2019年5月23日

住友生命保険相互会社

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構が発行する 「サステナビリティボンド」への投資について

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 橋本 雅博、以下「住友生命」）は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（以下「鉄道・運輸機構」）が発行する「サステナビリティボンド」への投資を決定しました。

「サステナビリティボンド」とは、環境・社会的課題の解決等に資する事業を資金用途とする債券であり、本債券の調達資金は、鉄道建設プロジェクトと船舶共有建造プロジェクトに充当予定であり、環境負荷の低減および交通インフラの整備に繋がることが期待されます。本債券も含め、鉄道・運輸機構が行う「サステナビリティファイナンス^{※1}」は国際的な第三者評価機関である DNV GL^{※2}の外部評価に加え、厳格な基準を設ける CBI（Climate Bonds Initiative^{※3}）からの認証を国内で初めて取得した案件になります。

住友生命は、持続可能な社会の実現、および、中長期での投融資を行う機関投資家にとって運用収益の向上に資するとの認識の下、ESG投融資に取り組んでおり、本債券への投資につきましても、その一環として行うものです。

今後も、ESG投融資を通じ、持続可能な社会の実現に貢献していくとともに、運用収益の向上に取り組んでまいります。

・本債券の発行概要

発行体：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（R&I：AA格、Moody's：A1格）

発行額：総額 430 億円

年 限：5年、10年、15年、30年

※1 環境・社会的課題の解決を用途とする資金調達

※2 1864年に設立されたノルウェー・オスロに本部を置く第三者評価機関

※3 低炭素経済に向けた大規模投資を促進する国際 NGO

以上